

チューバ アドバイザー



田村 優弥

1991年栃木県宇都宮市生まれ。東京藝術大学音楽学部を卒業、同大学大学院修士課程を修了。これまでにチューバを池田幸広、稲川榮一、多戸幾久三の各氏に師事。

ソリストとして東京交響楽団、足利カンマーオーケスター、新日本フィルハーモニー交響楽団(第28回芥川作曲賞選考演奏会)と共演。

第20回コンセールマロニエ21金管部門第1位。第33回日本管打楽器コンクールチューバ部門入選。第7回秋吉台音楽コンクールチューバ部門入選。また Menagerie Brass Quintet のメンバーとして第10回チェジュ国際金管楽器コンクール(韓国)金管五重奏部門第1位。2014年小澤征爾指揮サイトウキネンオーケストラにオーケストラメンバーとして参加。

メディア出演としてはNHK-FM「リサイタル・ノヴァ」、テレビ朝日「題名のない音楽会」など多数。

レコーディング、プロオーケストラでの客演などを中心に演奏活動を行う。

教育活動としては作新学院高等学校吹奏楽部コーチ(2017-)、神奈川大学吹奏楽部トレーナー(2018-)。

宇都宮短期大学音楽科・同附属高校音楽科講師。

2021 年度より講師に着任致しましたチューバの田村優弥です。21 歳の時に初めてプロのオーケストラで仕事をさせていただくようになってから、はや 10 年が経とうとしています。やはり金管楽器の醍醐味はホールの響きを使った煌びやかなサウンドにあるでしょう。

1. まずは積極的であれ

まず日ごろ皆さんが練習している場所がホールであればこれほどいいことはありません。が、現実にはきっとレッスン室だったり教室だったり、本番を行う場所とはかけ離れた環境だと思えます。

その場所で吹いてみたり録音してみたりすると上手く表現出来ていたとしても、いざ空間の広いコンサートホールで同じことをしても、客席には何のドラマも伝わらない、非常に味気のないボリューム不足な演奏になってしまうことが多いです。

限度はありますが、常に練習をする時には本番で演奏するホールの広さを想定して、まずは表現面を誇張してやってみること。金管楽器の宿命はそのコントロールの難しさにありますが、練習では音を外しても何ら恥ずかしいことはありません。それ以上に自分のやりたいことを 200%、300%やってみて、演奏技術のトレーニングをするのはどうでしょうか？それで客席で聴くと案外ちょうど良かったりするものなのです。



チリ、サンティアゴ市立劇場にて全く響かないホールを背に(2017)

2. 舞台上での意識

舞台上に上がった時は、これまで準備して来たことをどれだけやり尽くせるかということが1番重要ですが、緊張を伴ってしまいやはり100%の実力が出せる機会というのは少ないものです。

楽器を練習することだけが準備ではありません。演奏する楽曲をまるで歌手のライブのように歌ってみたり、あえて人に自分の練習を聴いてプレッシャーをかけてもらう、コンディションの向上のために体を鍛えたり、食べるものを調整してみたり…スポーツ選手も近年では精神面のトレーニングをすることが当たり前の時代になって来ています。演奏家の我々も同様に、個人個人に合ったメニューを考えて、「舞台上で演じる」時間が最高のものになるようにしたいですね。

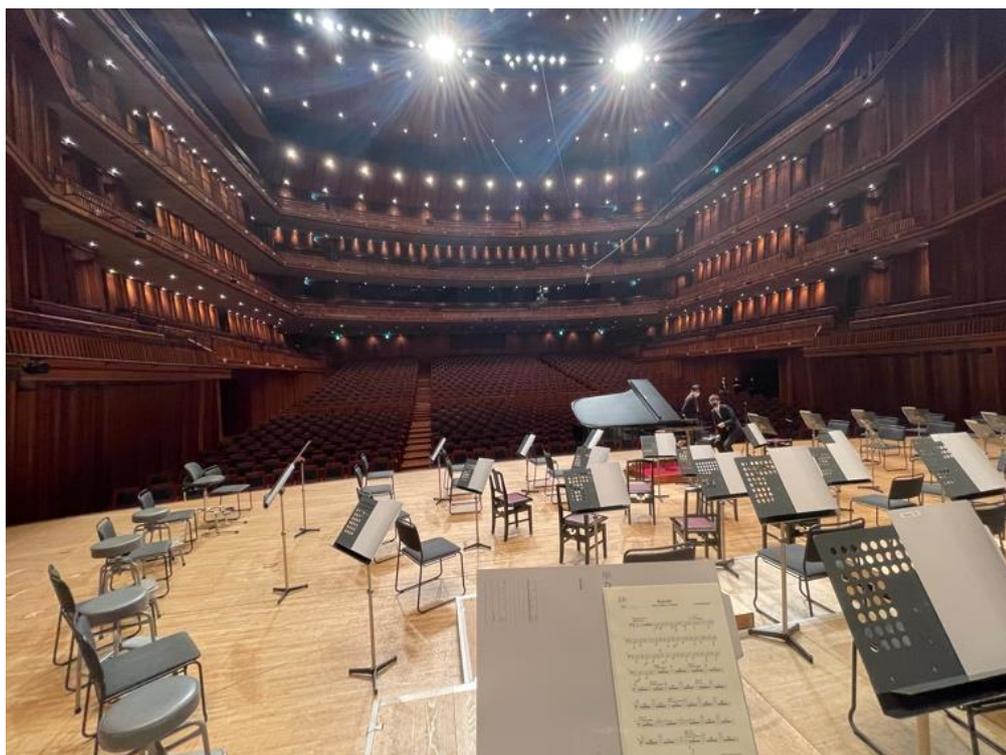


反田恭平、佐渡裕、JNO 特別編成ツアーから(2021)

3. 夢を思い描く

最後に一番僕が大切にしていることは、「夢をいつも思い描く」ということです。中学生の頃、初めてレッスンを受けに行った NHK 交響楽団の練習場。そこでいつか大人になったら仕事で戻ってくるんだ！と毎日毎日思いながら練習を続けて来ました。21 歳という早いタイミングで、その夢はあっさりと叶いました。ガタガタに緊張して大変でしたが夢のような時間でした。そこからは、憧れの小澤征爾さんの指揮でサイトウキネンオーケストラで吹きたい！という夢も 23 歳にして叶ってしまいました。

そうなってくると人間どんどん欲が出てきます。音楽に夢と希望を託した作曲家、その作品をコンサートホールで演奏できる幸せを噛み締めることが仕事になるのは最高なことです。夢を持って毎日を過ごしてください。



いつもホール of 1 番奥まで伝わる音、音楽を意識しよう！